

2026 年度 神戸大学 MBA 現代経営学応用研究(ファミリービジネス研究)シラバス

担当教員

岡田将稔客員教授、三菱 UFJ 銀行

開催日時

第一回:5月 2日(土)1限目・2限目

第二回:5月 9日(土)1限目・2限目

第三回:5月16日(土)1限目・2限目

第四回:5月23日(土)1限目・2限目

※1 限目(8 時 50 分～10 時 20 分)・2 限目(10 時 40 分～12 時 10 分)

講義形式

- 1.神戸大学と京都大学の受講生は対面での受講とします。
- 2.小樽商科大学と和歌山大学の受講生はオンラインでの受講も可とします。
(オンライン講義の詳細は BEEF+に記載します。)
- 3.小樽商科大学と和歌山大学の受講生が受講しない場合、講義形式は対面のみとなります。

教室

I206

成績評価方法と基準

1. 出欠は BEEF+のアンケートの提出により確認します。アンケートは講義当日中に BEEF+ に入力し提出をお願いいたします。アンケートは各回とも1 限目と2 限目に分かれてます。
2. 出席回数が半分に満たない場合は評価が「不可」となります。また欠席回数につきましては、最終的な評価に加味をします。
3. 提出物(100 点):提出されたレポートに基づいて評価をします。
中間レポートと最終レポートを提出頂きますので、詳細の内容、期限につきましては別途講義内でご案内をいたします。配点は以下 1)中間レポートが 30 点、2)最終レポートが 70 点です。
 - 1) 中間レポート ・課題指示 5 月 9 日(土)・提出期限 5 月 23 日(土)13 時
・提出方法 5 月 23 日(土)13 時までに BEEF+で提出
 - 2) 最終レポート ・課題指示 5 月 23 日(土)・提出期限 6 月 13 日(土)
・提出方法 6 月 13 日(土)までに BEEF+で提出

4. 加点(0~20点/ディスカッション、発表など):授業中の議論等における貢献度に応じて加点をします。(ただし、評価の合計点が100点を超えない範囲)

講義資料・準備

神戸大学 LMS 学修システム(BEEF+)で講義前までにダウンロードできるようにします。
第二回以降の資料掲載は以下の日時以降を予定しています。

第二回:5月7日(木)

第三回:5月13日(水)

第四回:5月20日(水)

参考文献

浅羽茂・山野井順一(2022)『ファミリー企業の戦略原理~継続と革新の連鎖』日本経済新聞出版。

奥村昭博・加護野忠男編著・ファミリービジネス学会編(2016)『日本のファミリービジネス~その持続性を探る~』中央経済社。

加護野忠男(2014)『経営は誰のものか~協働する株主による企業統治再生~』日本経済新聞出版。

三品和広(2015)『経営戦略の実戦1~高収益事業の創り方~』東洋経済新報社。

三品和広(2022)『経営戦略の実戦2~企業成長の仕込み方~』東洋経済新報社。

ジャスティン・B・クレイグ、ケン・ムーア(2019)『ビジネススクールで教えているファミリービジネス経営論』プレジデント社。

ミシェル・アルベール(2011)『資本主義対資本主義(改訂新版)』竹内書店新社。

授業テーマと目標

ファミリービジネスに関する研究教育活動を産学連携で推進するため、2022年4月に神戸大学経営学研究科内部に、ファミリービジネス研究教育センター(MUFG ウェルスマネジメント寄附センター)が設立されました。ファミリービジネスはコーポレートガバナンスとファミリーガバナンスの双方との関係性から関心が高まり、世界的に研究が進んでいます。特に日本においては、他国に比べて長寿企業が数多く存在しており、その多くがファミリービジネスです。ファミリービジネスは単に事業活動を通じた財務的な企業価値の向上だけではなく、地域経済の発展維持やSDGsなどの社会課題の解決においても重要な役割を果たしています。ファミリービジネスの視点を通して、現在の資本市場の求める制度改革や東証プライム企業の目指すべき姿についても議論を深めたいと思います。

本授業の担当教員は、社会人として神戸大学 MBA 修了後、神戸大学経営学研究科博士後期課程修了、博士(経営学)を取得しています。社会人学生の皆さまの MBA 修了後の博士後期課程への進学も含めて情報提供できればと思いますので、是非とも多くの受講

生の参加を心待ちにしております。

本授業では、ファミリービジネスに関する以下のテーマについて検討します。

1. ファミリービジネスの強みと弱みを探ることを目的にファミリービジネス研究の理論と実践(ケース)を研究する。
2. ファミリービジネス研究の各種理論を授業で整理したうえで、様々な切り口で実践(ケース)を取り上げていく。(例:長寿企業,上場企業創業家、名家の当主など)
3. ファミリービジネスと東証市場(上場)との向き合い方について、様々なステークホルダーの視点から考察していく。

※ファミリービジネスに関係するゲストスピーカーが登壇予定です。

講義内容

第一回:5月2日(土)1限目・2限目

- 1) イントロダクション
- 2) 神戸大学 FB 研究教育センター(MUFG ウェルスマネジメント寄附センター)について
- 3) ファミリービジネス研究の各種理論(エージェンシー理論・社会情緒的資産理論)
- 4) ファミリービジネスを様々な切り口で考察する(例:上場・非上場・長寿企業など)
- 5) ファミリービジネスの視点から資本市場制度改革について考察する
- 6) 教員・受講生とのディスカッション

第二回:5月9日(土)1限目・2限目

- 1) ファミリーガバナンスについて
- 2) MUFG の事業戦略について
(ゲストスピーカー登壇)
- 3) ゲストスピーカーを交えた教員・受講生とのディスカッション

第三回:5月16日(土)1限目・2限目

- 1) ファミリービジネスとPEファンドの協働について(ゲストスピーカー登壇)
- 2) ゲストスピーカーを交えた教員・受講生とのディスカッション
- 3) PE ファンドから見たファミリービジネスについて(ゲストスピーカー登壇)
- 4) ゲストスピーカーを交えた教員・受講生とのディスカッション

第四回:5月23日(土)1限目・2限目

- 1) ファミリービジネス企業の経営戦略について
- 2) 利益率が高い(=高収益事業を持つ)ファミリービジネス企業(ケース紹介)
- 3) 成長率が高い(=高成長を果たした)ファミリービジネス企業(ケース紹介)
- 4) 占有率が高い(=市場首位の逆転を果たした)ファミリービジネス企業(ケース紹介)
- 5) ファミリービジネス研究講義の振り返りとまとめ
- 6) ファミリービジネス研究の今後の可能性について

オフィスアワーの連絡先

講義前後に質問の時間を取ります。なお、質問につきましては各講義後のアンケートにご記載を頂くか、下記 3 名宛にメールを頂いても結構です。

メールアドレス

masatoshi_okada@mufg.jp

reiko_yoshinari@mufg.jp

shun_kawai@mufg.jp

以上